

#群馬

「館林紬」1000年の伝統紡ぐ 再興への活動拠点、ツムギトエンガワ開所 築120年の古民家活用

2025年4月20日 07時53分

会員限定記事

0



織り機などを展示した古民家施設「ツムギトエンガワ」＝いずれも館林市仲町で

群馬県館林市で千年以上続いた綿織物「館林紬（つむぎ）」の再興を目指し、地元の合同会社「紬・組」が同市仲町の古民家に活動拠点「ツムギトエンガワ」を開設した。和綿を育てて糸を紡いだり、館林紬の特徴であるしま模様が入った商品を開発したりして、伝統の灯をつないでいく。（平井剛）

館林紬は鎌倉時代発祥とされ、江戸時代には農家の副業として盛んになった。「唐棧縞（とうざんじま）」と呼ばれるしま模様が特徴だが、戦後は服装の洋装化や安価な輸入品の台頭で需要が減少。今では生産が途絶え、山岸織物（同市）が唯一、残った在庫を取り扱っている。

伝統を廃れさせまいと、アパレル出身の飯塚はる香さん（35）ら有志3人が2023年7月に合同会社を設立。山岸織物の倉庫にも使われていた築120年の古民家を借り受け、約8カ月間の改装を経て、今月12日にツムギトエンガワをオープンした。



館林紬の再興を目指す合同会社のメンバーらと家主の山岸さん（手前）

年間活動として、日本古来の木綿である和綿を種から育て、糸、布へと加工していくプロジェクトを5月10日に始める。第1期生8人を募集している。チーフディレクターの後閑静さん（50）は「新しい紬を一から作るプロジェクトとして、全ての過程を楽しんでもらいたい」と話す。詳しくはツムギトエンガワのホームページへ。

このほか、高崎市や埼玉県の実業家から寄付された織り機を使って手織り職人を育てたり、唐棧縞が入ったネクタイやピアス、ピンバッジなどのアクセサリを作ったりする。施設のシェア利用も呼びかけ、「この施設を縁側のように常に開けた空間にしたい」と飯塚さんは語る。

古民家の家主で山岸織物の山岸美恵（よしえ）さん（77）は「伝統ある館林紬が主人の代で絶えるのは寂しいと感じていたので、再興の場ができて大変うれしい。私も経験を伝え、若い人たちが自立できるよう応援していきたい」と述べた。

！ なるほど！
0

♡ 大切だね
1

☹️ もやもや…
0

😊 もっと知りたい
0